



図書館を活用したNIE教育の実践

—新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の利活用—



磯山 隆史

<抄録>

NIE実践校の指定を受け、図書館を中心にさまざまなNIEの取り組みを行ってきた。新聞の持つ教育効果について研究実践を進めつつ、朝日新聞の小中高生向け新聞記事データベース「朝日けんさくくん」のデジタルデータとしての利便性を考慮した実践に取り組んだ。

<キーワード>

学校図書館、情報収集能力、新聞記事データベース、NIE

1 はじめに

本年度、本校はNIE実践校の指定を受け、さまざまな取り組みを行ってきた。本校では毎日、各クラスに朝日新聞が配布されているが、恒常的に読んでいる生徒は少ない。今回行ったNIEの取り組みによって、新聞の利活用が進み、生徒の、新聞への関心が上がることを期待した。

また「朝日けんさくくん」の検索機能を活用すると、新聞記事の教材化が簡便でさまざまな利活用の可能性を感じた。そこで、図書館を中心に新聞記事を用いた教育活動と新聞記事の教材化について取り組み、生徒の主体的な学びにつなげることを試みた。

2 新聞を活用した授業や図書館の取り組み

(1) 「平家物語 忠度の都落ち」新聞を作る



「平家物語 忠度の都落ち」を立場の違う視点から複数の新聞を作成し、ディスカッション授業を行った。新聞作りから作品への理解を深めさせ、立場の異なる視点

で作成させることで、作品を重層的に読む方法を学ばせた。新聞を作成するときに簡潔に文をまとめることや読者に読ませる工夫等、表現技法にも注意できるようになった。

さらに新聞を「出来事」と「人物」といった視点で読み直す力も付き、書かれていないことを想像する力も付いたようであった。作成した新聞を通じてディスカッションを行ったことにより、作品理解が深まると同時に、作品の背景をも多面的に読み取ることができた。新聞という表現形式は、生徒自身が自らの思考の整理に役立てることができたようである。

(2) 新聞ビブリオバトル



—昨年度から図書委員会では読書会で「ビブリオバトル」を開催してきたが、本年度は、本の代わりに新聞記事を題材にして行った。また、公民館館長や本校教諭、教育実習生が参加し、「グループに一つ大人の視点」という構成にした。記事紹介後の質疑応答では、活発な話し合いが行われた。

取材に来られた新聞社の記者の講評として「多くの人が柔らかい記事を選ぶと思っていたが、予想以上に堅い記事を選んできたのに驚いた。また、大人顔負けの議論があちこちでなされていて高校生のパワーのすごさを感じた。18歳選挙権などは、疑問を持っていろいろと選んで読んで行ってほしいし、勉強して行ってほしい。」とアドバイスを得た。また、生徒の感想としては「他の人の意見を聞いてみて、同じ歳なのに、こうも考え方や捉え方は違うんだなと思った。私は普段あまり新聞を読む機会がなかったが、今回、新聞を読んでみて、まず配置が一番大切な記事がわかり、もっと目を通すと、その記事の補足などがちょこちょこっと配置されていて、とても見やすく、わかりやすいことに気づいた」というも

ISOYAMA, Takashi : 岡山県立岡山芳泉高等学校 (岡山県岡山市南区芳泉 3-1-1)

のもあった。

新聞を教材にするというだけでなく、それを生徒の主体的な学びつなげていく工夫が重要であろう。

3 「朝日けんさくくん」を活用した授業



(1) 天声人語漢字テスト

天声人語は簡潔な文章で従来より国語教材として高い評価を受けている。また時事的内容から文化的な内容まで多岐にわたっており、高校生が身に付ける教養として見つけるにふさわしい内容でもある。今回「朝日けんさくくん」を用いて天声人語を電子データでダウンロードし、文章の全ての漢字をひらがなに直しそこに傍線を引いて、漢字テストにした。文章の中での漢字を意識させることで文書の組み立てとともに漢字の知識を総合的に身に付けさせることを目的にした。

天声人語は内容の豊富な文章であるので、漢字テストの様式をとっているが、内容の読み込みにつながるため、生徒は懸命に取り組んでいた。また、内容に応じて漢字を選んで書くので、簡単な漢字であっても考えて書く癖が付いたようであった。通常の漢字テストと違い内容のある文章を漢字で直すので、「このほうが（通常の漢字テストよりも）面白い」という生徒の感想が得られた。

(2) 「山月記」新聞記事資料活用

高校の定番教材である中島敦の「山月記」の理解を深めるために、新聞で「山月記」がどのように扱われているかを調べさせることにした。小説教材は登場人物の心情読解や表現技法の学習が中心となっている。その一方で作者の人となりや作品の背景などへの考察を交えることで作品理解を深めていくことができる。今回、「朝日けんさくくん」のキーワード検索機能を用いて、一般に「山月記」「中島敦」がどのようなものとして受け入れられているかを知ることを通じ、作品理解の手立てとすることにした。

生徒を数人のグループに分け、それぞれのグループに「朝日けんさくくん」でキーワード検索させ、見出し文の興味に応じてランダムに調べさせた。検索結果は、生

徒が予想していたような作品内容や作者の人生にかかわるようなものは少なく、例示、引用として使われているものばかりであった。そのことで生徒は少なからず失望していたようだが、逆に一貫したテーマで表れてこないことが、この作品の普遍性を物語っているという気づきが得られた。小説は非常に特殊な設定で進んでいくものでありながら、実は同時に人間に普遍的に存在する問題点が描かれるものである。特に、多くの人が知っている作品を取り上げた場合、作品名を出すだけでも物語るところは多い。まして、それを大きく取り上げたならば、現実問題における矛盾や葛藤をより深く物語られることになる。「朝日けんさくくん」の検索機能によって、生徒たちは今までとは異なる新聞による情報収集を学ぶことができたようであった。

4 「朝日けんさくくん」を活用したホームルーム活動

○ニュースダイジェスト発行

毎週金曜の終礼時に、新聞記事を用いたエッセイを生徒に配布した。学年教員が輪番で生徒に読ませたい記事とそれにかかわる短いエッセイをA4版1枚にまとめ、毎週金曜日に生徒に配布し読ませる取り組みを行った。各担当教員は、発行日まで、生徒の興味関心と教科学習や単元とのかかわりを考慮しつつ、「朝日けんさくくん」の検索機能を活用して記事をダウンロードする。ダウンロードした記事は、デジタルデータなので、下線を引いたり矢印をつけたりなどの編集が可能である。そこで、単元学習の内容と対応している記事等の場合は、そのまま授業教材として活用できる。当初、生徒たちは新聞記事を読む習慣がなく、「難しい」「わからない」というものが大半であったが、継続して行った結果、「興味が出てきた」「自分でも考えて読めるようになった」という感想が得られるようになった。

5 おわりに

新聞記事は教材として多面的な活用ができ、アクティブ・ラーニングを行う上でも有益なコンテンツである。その一方で生徒には身近なものではなく、読むべきだが難しいものという印象がつきまとっている。しかし、継続して読む機会を作ると、案外十分読みこなし自分の意見を形成する手立てにもなり得る。新聞記事データベース「朝日けんさくくん」は、生徒にも使いやすい画面を備えており、テーマを持って記事を集めることができるので、生徒の主体的な学びに活用できる可能性を秘めている。

今後は、生徒の探究学習のテーマ設定等への応用にも研究を深めていくようにしていきたい。